

オランウータンに熱帯の森を —インドネシアにおける熱帯雨林回復の取り組み—

活動地域  インドネシア

ひろげる助成

3年目

実践

森林再生のための調査 **3回**

資料、教材の作成 **600部**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **60%**



「熱帯に森を残そう」を発行しました

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍の影響で人が集まる機会を制限され、表立っての会合等の呼びかけは自粛せざるを得なかった。従来の普及啓発活動からの転換が必要であったが対応が不十分だった。

■ 工夫した点

インドネシアは日本をはじめ海外からの入国、国内での人の移動が制限された1年だったが、現地のスタッフ(村人)を中心にまとめ、活動を維持、継続した。

課題

野生オランウータンの生息地である熱帯雨林は石炭の露天掘りなどの開発が進むことで、入植や違法伐採が増加し、荒廃が進んでいる。

目標

オランウータンの生息地である森林のこれ以上の状況の悪化を防ぎ、再生への道筋をたてること。

活動内容と成果

現地の森林の状況把握と現在の土地利用状況の調査、パトロールなど森林の再生に向けた取り組みを行った。現地は新首都移転の新しいニュースとともに各地で耕地化が進んでいる。こうした状況を踏まえて新たな再生計画案を作成、実施する必要があるが、今年度は予定どおり進めぬ点も多く、棚上げとなっているものに関しては、今後引き続き取り組んでいく必要がある。また、熱帯雨林の保全に関する普及啓発活動も行っているが、今年は活動の節目の年でもあり、教材資料として小冊子「熱帯に森を残そう1、2」をまとめた。



果樹園となりランブータンが植えられていた

全助成期間の活動を振り返って

私たちは、自分たちが主体となって、現地の人々とともに直接課題にあたるという形で長年活動を続けてきた。そういう意味で現場主義ののだが、本年は助成最終年であったにもかかわらず、現地への渡航がかなわず、今後の事態の早急な改善も期待できない状態となっており、見通しがつかず非常に残念である。しかし、一連の活動により、プロジェクトの重要性、意義に関しては理解が進んでおり、今後も時をみて計画を進めていく必要がある。



植樹して5-6年たった場所

〒162-0065
東京都新宿区住吉町8-23 富井ビル2F
電話：03-5363-0170
E-mail：mof.orangutan@gmail.com
HP：http://moforangutan.web.fc2.com



今後の展望

森林再生への取り組みは緊急の課題ではあるが、同時に時間がかかる息の長い取り組みでもある。今回は生憎の事態となり、足踏みを余儀なくされているが、長い目で見ればこれらもひと時のことである。人の目が届きにくい中、一帯の見回りは非常に重要であり継続していく必要がある。私たちはこうした現地での基本的な作業を維持し、支えていくためにも、今後も熱帯雨林保全の重要性を訴え、支援の輪を広げていきたいと考える。